

令和3年度 堅田小学校学校評価書

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			中項目評定	評価に関する説明	中項目評定	意見・提言等	
基礎基本の徹底と個性を伸ばす教育の推進	教育目標	「心をこめて あいさつ」を常に意識し、実践している。	A	・あいさつ、お礼等がしっかり言える社会人としての当たり前の振る舞いができる教師集団を目指している。まずは教師が子どもに示していく必要がある。 ・「堅田小3つの約束」として、「あいさつ・そうじ・聴く」の指導に取り組んでいる。1学期は「あいさつ」2学期は「そうじ」3学期は「聴く」を生活目標として重点的に取り組んだ。堅田小の約束として子どもたちに浸透してきている。	A	・登下校の見守りで立っていると、しっかりあいさつしてくれる姿がある。子どもたちが心身ともに健やかに育っているのも、先生方のおかげだと感謝している。 ・今年度はコロナ禍で難しかったが、来年度は年度初めに、学校評価委員のメンバーで学校教育目標の共有をできるとよい。 ・子どもたちは、挨拶が定着してきている。同じように、教職員も地域の方やPTAの方に積極的に挨拶できるとよい。	・堅田小学校の教育の柱として、来年度も「3つの約束」を常に意識して実践していく。「みんなが幸せになる学校を目指して」を教職員の基本姿勢として日々取り組む。 ・「聴く」ことは、全校で統一して指導できるよう、「堅田小スタンダード」を作成した。学力向上部を中心に今後も取り組みを進めていく。
		「額に汗する そうじ」を常に意識し、実践している。					
		「目と耳と心で 聴く」を常に意識し、実践している。					
		学校経営の基本「みんなが幸せになる学校をめざして」を常に意識し、実践している。					
	教育課程	子どもの実態に即した教育課程にするため、日々の実践から改善点を見つけようとして努めている。	B	・学級担任、担任外教員等が連携しながら適切な教育課程の進捗に努める。 ・中学校とは、スムーズなつながりを意識し、小中連携推進委員会を通じて連携に努めた。	B	・子どもたちに対して細かい配慮と様々な工夫をしていただいていると感じている。	・来年度も学級担任、担任外教員等が連携しながら適切な教育課程の進捗に努める。 ・中学校とは各取り組みが定着してきたので、保育園幼稚園とも連携を図り、1年生がスムーズにスタートを切れるよう取り組みを進める。
		保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラムの研究に努めている。					
	授業改善	子どものコミュニケーション能力を高め、共に学び合う授業を意識した授業の工夫・改善に努めている。(ICT活用含む)	A	・行事や会議の精選をし、教師がゆとりをもって教材研究できる時間の確保が必要である。 ・共に学び合う授業を校内研究だけでなく、普段の授業づくりで意識し、授業の工夫・改善に取り組んでいる。授業では「ねらい」を示し、子どもたちがその授業で何を学ぶのか、子どもたち自身が意識できるようにした。また、そのねらいを授業の振り返りにつなげるようにした。 ・学年で主題にそって研究を進めた。日々の実践の中で主題に迫れるように努めた。研究授業は行ったが、コロナ禍、全員参加は難しく、できる範囲での参観となった。 ・家庭学習を定着させることが難しい。	A	・iPadはどれくらい活用できているのか見えにくい、どの家庭にもWi-Fi環境を整えてあげてほしい。 ・子どもたちがキーボードで文字を打てるようにしてあげてほしい。 ・コロナ禍で学級閉鎖や不安で登校を控える子どもが増える中、1年生からリモート学習ができる環境を整えてほしい。 ・基礎学力の定着に向けて、基礎学習タイム・ロング基礎学タイム等の取組を継続する。低学年からの積み重ねを大事にしていく。 ・校内研究で積み重ねてきた成果についての情報共有をしっかりと行い、今後の実践につなげ、授業改善に努める。 ・家庭学習の定着に向け、HPや学校だより、個別懇談会等で保護者に協力を得られるよう発信していく。	・研究授業以外にも、お互いに声を掛け合って授業参観しやすい体制づくりに努める。 ・研究授業や参観し合った授業について話す場では、成果点ばかりでなく課題点についても協議を深め、お互いの授業力向上につながるようにする。 ・学年で教材研究をするなど、授業を見つめ直し、引き続き授業改善に取り組む。教員同士の「学び合い」を進め、自らの指導力向上に努める。 ・基礎学力の定着に向けて、基礎学習タイム・ロング基礎学タイム等の取組を継続する。低学年からの積み重ねを大事にしていく。 ・校内研究で積み重ねてきた成果についての情報共有をしっかりと行い、今後の実践につなげ、授業改善に努める。 ・家庭学習の定着に向け、HPや学校だより、個別懇談会等で保護者に協力を得られるよう発信していく。
		子どもたちの学びを中心に据え、授業の「ねらい」と「振り返り」を大切に授業を行っている。					
		校内研究が職員相互の学び合いの場となり、指導力向上につながっている。					
		学校での学習を家庭学習につなげ、その習慣化に向け取り組んでいる。					
研究推進	教員間で授業交流や教材研究等に積極的に取り組み、自らの指導力の向上に努めている。(情報活用能力含む)	A	・校務分掌の仕事量にかたよりがある。仕事を分担する方法を考えるべきである。 ・起案や検討が必要な事項を早く下ろし、全職員で時間をかけて内容を吟味していく必要がある。 ・生徒指導対応等時間外労働時間が長い。	B	・コロナ禍で先生方が本来携わらなくてもよい仕事が増えて、過重労働になっているように思う。	・効率化を図り、教職員の働き方改革への意識向上に引き続き取り組む。	
	校内の分掌組織について、それぞれの担当者が責任と役割意識を持ち、協力できる体制が築けている。						
豊かな人間性と社会性を育む教育の推進に関して	道徳	生命の大切にする心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育むよう、特別な教科「道徳」を中心に、全教育活動で指導できている。	A	・「特別の教科道徳」を中心に、学校教育全般において道徳的実践力の育成に取り組んでいる。また、コロナでのいじめがないよう、教材を使って指導をした。今年度は授業参観の機会が少ない中でも道徳公開が積極的にできた。 ・「総合的な学習の時間」では、カリキュラムに従い取組を進めてきた。各教科との連携を図り、さらなる創意工夫をしていきたい。「防災教育」や「歴史探訪」については、コミュニティ・スクールの方々と連携しながら、取組が進められた。	A	・「特別の教科道徳」になってから授業参観などで参観していないので、どのような授業をしているのか来年度は観に行きたい。 ・児童が達成感を感じ、生き生きと取り組む姿が見られるよう、工夫・改善を進める。地域にも協力をお願いし、堅田の特色ある取組を作っていく。	
		特別な教科「道徳」において、道徳性を深める指導の工夫・改善に努めている。					
		総合的な学習の時間は、各教科との連携を図った全体計画に基づき、適切に実施できている。					
		子どもの実態を把握し、お互いの人権が尊重できるよう指導を継続的にしている。					
	生徒指導	様々な生徒指導上の諸問題の早期解決や日常的な予防指導のため、組織的な対応や指導が行われている。	A	・子どもたちの様子について学年の教員や担任外の教員と情報を共有し、組織的に対応する体制を整え、生徒指導上の諸問題の早期解決に努めている。 ・ケースによっては、SCやSSWなどの専門家の助言を得たり、外部機関と連携したりして、課題解決に取り組んでいる。 ・子どもたちの様子について、電話連絡等により積極的に保護者に伝えるようにしている。	A	・不登校傾向の子どもたちが登校できる環境を整えてほしい、不登校傾向の子どもたちが通う部屋を昇降口の近くに持って行けると、保護者が送ってすぐに校舎へ入れるのではないかと思う。 ・生徒指導対応が丁寧すぎるように思う。子どもたち同士で解決できたことは、家庭連絡は不要ではないか。家庭連絡に時間がかとれすぎているように感じる。	・生徒指導上の諸課題の未然防止に向けた取り組みを推進する。 ・学校全体で授業の改善に取り組む。 ・特別活動など子どもたちが主体的に取り組む活動を充実させる。 ・学校が把握している子どもたちの課題について、保護者・地域により周知していく。
		教職員は一人ひとりの児童を理解し、個人として、また集団として児童を伸ばすよう努めている。					
		教育相談体制が整備されており、児童や保護者は担任だけでなく、担任以外の教師とも相談できる体制が築けている。					
		問題行動やいじめ、不登校傾向の児童に対して、組織的な支援体制で対応できている。					
	特別支援教育	SCやSSW、外部の関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいる。	A	・学年を中心に校内での共通理解を図ることができた。 ・学校からはたらきかけることで、子ども発達相談センターへの保護者相談が増えた。 ・今年度は外部から来ていただく研修は控えた。校内で個別の指導計画作成についての研修を行った。作成時間をとったことはよかった。個別の指導計画を作成することで児童を見取ることができ、懇談で保護者と目標設定や評価を確認できた。	A	・民生児童委員も活用いただき、地域で児童の課題を共有し、地域と一緒に子どもたちを育てていきたい。	・個別の指導計画をもとに、ていねいな支援ができるよう努める。 ・今後も校内で個別の指導計画作成についての研修を行い作成時間をもつ。 ・学級づくり授業づくりの中での支援、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援が行えるよう、子どもをよく観て、教育活動につなげる。児童理解に努め、保護者や関係機関との連携を深める。
		「いじめを絶対に許さない」という毅然とした態度や支持的風土のある学級・学年づくりを大切にしている指導ができている。					
保健安全指導	学年内や学校全体で、特別支援教育に関する話し合いを行い、共通理解を図っている。	A	・地震・火事・不審者を想定して避難訓練を行った。コロナ禍のため、全校で集うことはできなかったが、各クラスで事前指導・事後指導等ができた。また、不審者情報等機会がある度に不審者への対応については指導を繰り返している。 ・新型コロナウイルス感染対策は、感染レベルが変わるたびに指導の仕方を変更するなど、臨機応変に対応できた。	B	・登下校について心配な箇所がある。車が出入りする場所や、車の通りが多い場所は、安全に渡ることができるよう学校でも指導し、地域も協力体制を組んでいる。今後も継続していく必要がある。	・交通安全指導や防災学習、感染症予防、けがの未然防止など、児童と教師の危機管理、危機回避の力を高める取り組みを進める。また、PTAや地域諸団体との連携も継続し進めていく。	
	必要に応じて、関係機関のアドバイスを受れたり、研修の機会を設けたりしている。						
	児童のもつ課題や実態について、個別の指導計画の利用など適切な方法で全教職員が理解するよう努めている。						
	児童の健康に対する保持・増進の意識を高めたり、運動しようとする意欲を高めている指導ができている。						
体力向上	たくましい心と体を育てる魅力ある授業や体育行事の工夫や改善に努めている。	A	・委員会活動等を通して、縄跳びやリレーの練習場を設け、子どもたちが運動を意欲的に行える環境を用意した。 ・校内で〇〇選手権といった学校全体の体育イベントを取り入れた。 ・子どもたちの体力向上のため毎日体育の宿題を出している。	A		・休み時間等にも進んで運動に親しめるよう、体育の授業を工夫する。また、健康な体、体力の向上に向け、体育の宿題の工夫、運動あそびの工夫、保健、食育学習の一層の充実に取り組む。	
	子どもたちは、本校の目標にそって育っている。						
く地域色域に開かれた学校	の地域連携等	学校公開日や通信、HPなどを活用し、家庭・地域・関係機関との連携を図るよう努めている。	A	・今年度初めて「子ども安全見守り隊」を取り入れ、地域の方に学校の様子を見ていただき、継続していく点や改善点を聞くことができた。 ・コロナ禍でもできる範囲でコミスクやPTAの方々と連携を意識して取り組んだ。	B	・学校だよりはいただくが、コロナ禍でなかなか学校の様子がわからないため、地域にももっと情報を発信してほしい。そして、地域をもっと活用してほしい。コミュニティ・スクールは地域とつながるよい機会となっている。来年度は、総合的な学習の時間以外でも関わってほしい。	
		学校は、保護者や地域の要望や意見を把握しながら、その要望に応えたり、保護者を支援していこうとしている。					
	児童の姿	子どもたちは、楽しく学校生活を送り、学校に来ることを楽しみにしている。	B	・学年の子どもたちを学年で育てていくという意識を持つために、学年間で足並みをそろえる必要がある。 ・88.6%の子どもたちが学校へ来ることを楽しみにしている。	A	・コロナ禍で大変な中、子どもたちが楽しく学校生活を送れているようで安心した。 ・学校目標に沿い実践を積み重ねるとともに、楽しい学校作りに努める。 ・全校に関わる教育活動は、活動の趣旨、ルール等職員会議で提案し全職員で進めていく必要がある。	

達成度 A: 目標を上回る達成、B: 目標を達成または概ね達成、C: 目標を達成せず、D: 目標を大きく達成せず

評定(達成度)の目安

達成度	指標	4段階評価における割合	
A	目標を上回る達成	「よくあてはまる」	「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が90%以上
B	目標を達成または概ね達成	「よくあてはまる」	「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が80%以上90%未満
C	目標を達成せず	「よくあてはまる」	「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が50%以上80%未満
D	目標を大きく達成せず	「よくあてはまる」	「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が50%以下